

8880

2880

結了形或後
概不同條件ノニノカ更、実可
入ルルナリ今令セ
鏡

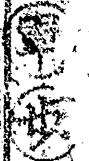
鏡



依



運價
謝名



決行

8880

審査中

(步兵学校に於て)

六月廿七日

連署
署名
印

決行後
署名

中録書
二拾五
下
附
如
大正
録

陸軍技術本部ノ達

現制小銃制式改正ノ目的ヲ以テ大
正八年十二月二十二日甲第二〇四
号上申ノ設計要領書ニ基キ新小銃
ヲ試製ノ上審査履申スルニ

陸軍技術本部 第二〇八號

月廿三日

1680

課

陸軍技術部 甲 第二〇四號

試製小銃設計要領書呈出ノ件上申

大正八年十二月二十二日

陸軍技術本部長村岡恆利

陸軍大臣 田 中 義 一 殿

小銃口径改正ニ伴ヒ將來新調セラルヘキ小銃ハ別紙設計要領書ニ基キ
審査研究ノ上決定スルヲ適當ト認メ候條及上申候也

陸軍大臣 田中義一殿

8.12.28

陸軍技術部 第三八五號

陸軍大臣 田中義一殿

陸軍大臣

0892

試製小銃設計要領書

大正八年十二月
陸軍技術本部

試製歩兵銃設計要領書

重量及全長

一銃ノ重量ハ四割ヲ標準トス

但可成之ヲ輕減スルコトニ努ム

一銃ノ全長ハ一米二六〇ヲ標準トス

銃身

一銃身長ハ三八式歩兵銃ト同一トス

二口径ヲ七糎七腔線ヲ右轉四條纏度ヲ二三七糎トス

三腔線及藥室ノ徑始ハ別紙圖面ノ通り

四銃身外部ノ徑始ハ三八式形ニ據ルコトナク腔壓

及外力ニ對シテ適當ナル寸度ヲ與ヘ且射擊熱

依ル銃身ノ伴長ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ上帯
附近ニ内筒部ヲ存ス

但銃身ノ重量ハ三八式歩兵銃ヲ超ユルコトナシ

尾筒機関部

概形ヲ三八式歩兵銃ト同一トス

但其全長ヲ増加セサルノミナラス重量輕減ノ目
的ヲ以テ死量ヲ減少ス

引鐵作用ヲ円滑不變ナラシムル目的ヲ以テ引鐵頭
部ノ徑始ヲ改良シ引鐵頭部引鐵軸軸孔引鐵
頭部ノ觸接スル尾筒下面ノ全質ヲ調整スル
ト共ニ逆鉤ノ上昇ヲ一定ニ制限ス

- 三、遊底ノ閉鎖ヲ円滑ナラシムル目的ヲ以テ尾筒及遊底ノ一部ノ徑始ヲ改良ス
- 四、銃身ノ後退ヲ尾筒前端附近ニ於テ確實ニ防止スル目的ヲ以テ尾筒前端附近ニ於テ銃床トノ結合状態ヲ改良ス
- 五、擊莖ノ折損ヲ防ク目的ヲ以テ其徑始及地金調質ヲ改良ス
- 六、彈倉底板ノ脱落ヲ防ク目的ヲ以テ駐子部ノ徑始ヲ改良シ地金調質ヲ行フ
- 七、安全装置ヲ容易且確實ナラシムル目的ヲ以テ擊莖駐脚及擊莖ノ一部ヲ改良ス

八、銃ノ火分解ヲ行フコトナク遊底離子ニ
加修ニ得ニムル目的ヲ以テ其取付法ヲ改變ス

照準具

一、窺線長ヲ六九〇糎トス

二、照準ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ三八式歩兵

銃ニ比シ最低窺線ヲ若干高上ス

三、照尺ハ扇形式トシ照門及照星ノ兩側ニ保護

装置ヲ設ク

四、照門及照星ノ保護装置ハ進行機射撃目標

指示等ニ利用シ得ヘキ徑始ト寸度ヲ與フ

五、照門及照星ハ照準ヲ容易且正確ナラシムル如キ

徑始ヲ與フ

六、照尺方畫ハ二、〇、〇、〇米迄トシ表尺及照尺坐左側面

ニ目盛ヲ刻ス

七、遊標ノ操作ヲ容易且正確ナラシムル目的ヲ以テ遊標及駐鈎ノ徑始ヲ改良ス

八、照門高ノ正確ヲ保續セシムル目的ヲ以テ照尺坐

上遊標トノ摩擦面及表尺軸ト軸孔トノ摩擦面ヲ硬化ス

銃 床

一、銃床ノ徑始寸度ハ抗力ノ許ス範圍ニ於テ日本人ノ體格ニ適應セシムル目的ヲ以テ三八式步兵銃ニ

陸 軍



此ニ床尾ノ長サヲ約一五糎短縮シ床尾鉸ノ形狀
 銃把ノ傾度及寸度木被部ノ大サヲ改良ス
 二寒地射撃ニ於テ照準ヲ容易ナラシムル目的ヲ以
 テ木皮ヲ上端迄延長ス

鉸 鍊

一上下帶ノ移動ヲ防ク目的ヲ以テ其徑始及駐止樣
 式ヲ改良ス

三抵抗力増加ノ目的ヲ以テ榭杖ノ中徑ヲ五糎トス

三榭杖又銃ヲ本位トシ榭杖孔へ雨水ノ浸入スルヲ防
 ク目的ヲ以テ榭杖頭部ノ徑始及榭杖駐止ノ樣式
 ヲ改良ス

四、重量ヲ減シ抗力ヲ増加スル目的ヲ以テ上下支鐵ノ
 肉厚ヲ減シ地金調質ヲ行フ
 五、銃劍ノ動搖ヲ防ク目的ヲ以テ著劍ニ要スル駐
 梁ヲ表面硬化ス
 六、銃腔手入用補助具兼用ノ銃口蓋ヲ用フ

劍

一、刺突ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ劍身尖部約七〇
 純ヲ兩又トス
 二、斬撃ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ劍身横断面ヲ
 日本刀形トス
 三、劍鑕内部ノ手入ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ下部

彈鎖子ヲ廢シ上部彈鎖子ノ徑始及寸度ヲ改良ス
 四著劍ニタル場合ニ其動搖ヲ防ク目的ヲ以テ柄頭
 駐筭及劍鐔ノ銃身孔ヲ表面硬化ス
 五糊杖又銃ヲ本旨トスレトモ夜間警戒等ノ又銃ノ
 タメ又銃鈎ヲ存置ス
 六全長及重量ハ三十年式銃劍ヲ標準トス

彈藥 (附圖参照)

- 一 實包全長ヲ八〇粒トス
- 二 藥莢全長ヲ五八粒トス
- 三 藥莢片筒部最大外徑ヲ一二粒トス
- 四 彈丸ハ彈身ヲ硬鉛、被套ヲ被白銅鋼製トス

五、彈量ヲ一〇瓦三、彈長ヲ二九粒三五、彈徑ヲ七粒八五

トス

六、裝藥ハ表面膠化無煙小銃藥ニシテ最大腔

壓三五〇〇、腔以下銃口前ニ五米ノ速率ハ七〇

米トス

率

五
軍

試製騎銃設計要領書

重量及全長

- 一 銃ノ重量ハ三拾四〇〇ヲ標準トス
- 二 銃ノ全長ハ〇米九八〇ヲ標準トス

銃身

- 一 三八式騎銃ニ比シ三〇糎延長ス
- 二 其他ハ試製歩兵銃ニ準ス

尾筒機関部

- 一 概形ヲ三八式騎銃ト同一トス
- 二 其他ハ試製歩兵銃ニ準ス

照準具

一 觀線長ヲ四一五粒トス

二 其他ハ試製歩兵銃ニ準ス

銃 床

一 試製歩兵銃ニ準ス

銃 練

一 床尾龍環ノ様式ヲ射撃ニ便ナシ如クス

二 其他ハ試製歩兵銃ニ準ス


劍

一 試製歩兵銃ノモノニ同シ

彈 藥

一 試製歩兵銃ノモノニ同シ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	<table border="1" data-bbox="644 506 1002 797"><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため				
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7年2月10日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>					

5060

大正八年十一月

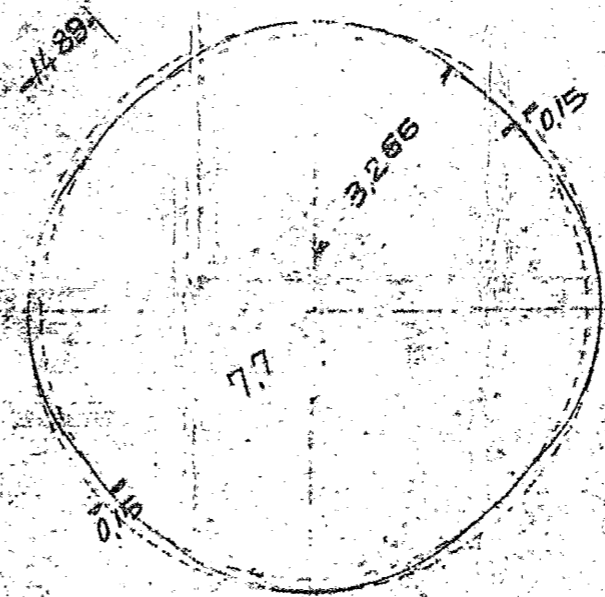
七粒小七實包藥室及腔綫斷圖

全體



註記
 藥 莖
 藥 莖 底 莖
 藥 莖 外 面 削 起
 彈 丸 被 甲 被 白 刺 錐
 彈 身 配 合 鉛 不 五 錫 八
 雷 管 形 狀 一 八 準 八

腔綫斷面



$$d = D + 0.15$$

$$S = \frac{1}{4} \pi d^2$$

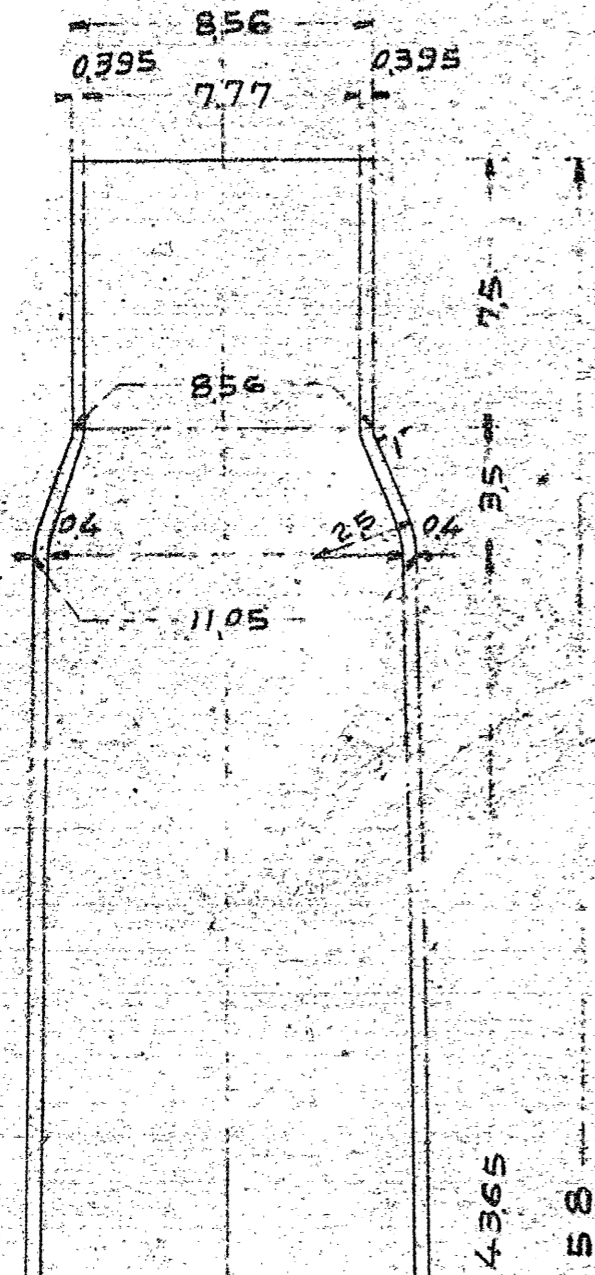
口徑	中彈丸徑	斷銃腔面積	纏度
D	d	S	$\frac{\pi d}{x}$
mm	mm	mm ²	
7.7	7.85	48.3977	237.0

9060

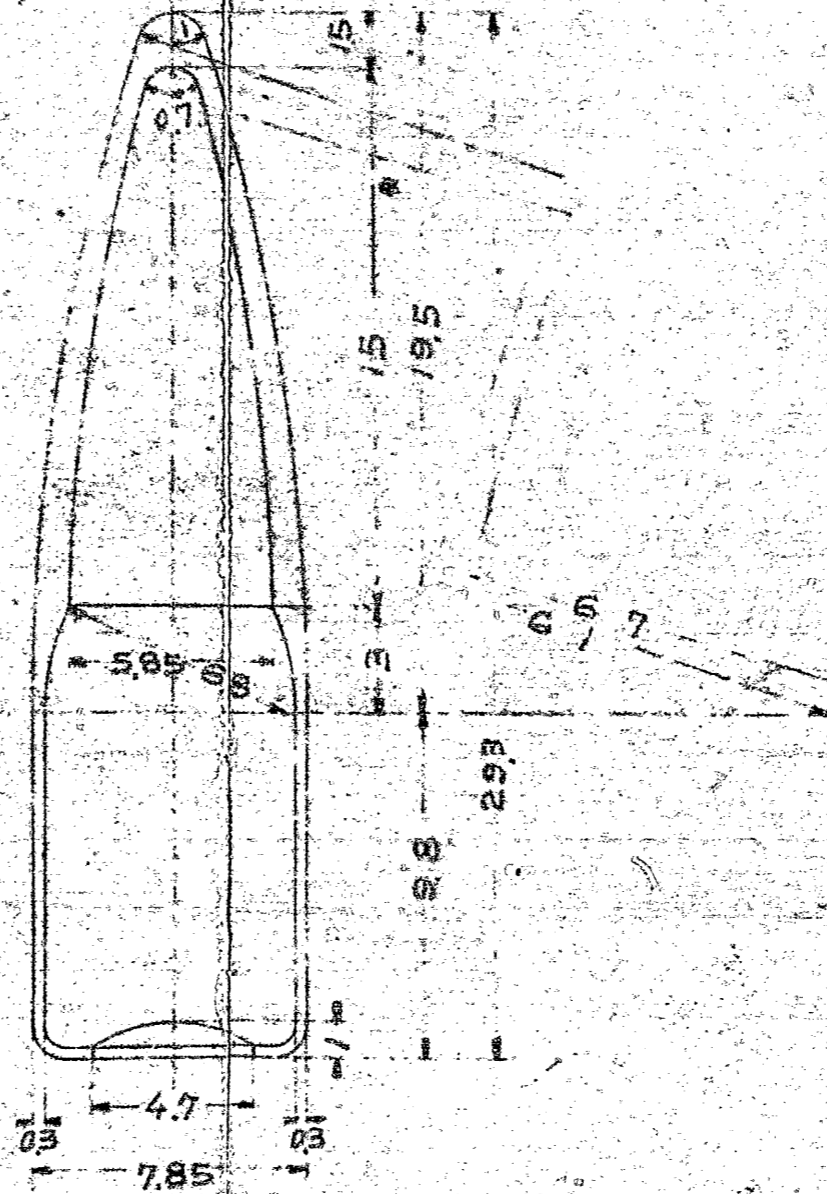
9060

圖面斷綫腔及室藥包實銃小七

藥 莖



丸 彈

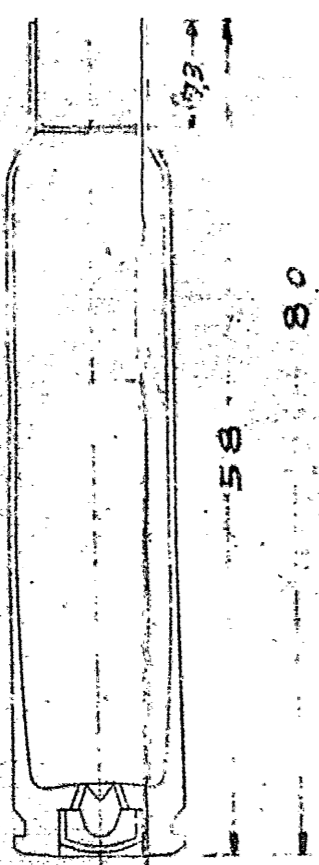


體 全



彈丸被甲 被口封鐵
 彈身配合 鉛力五錫九
 雷管形狀 一八式三連

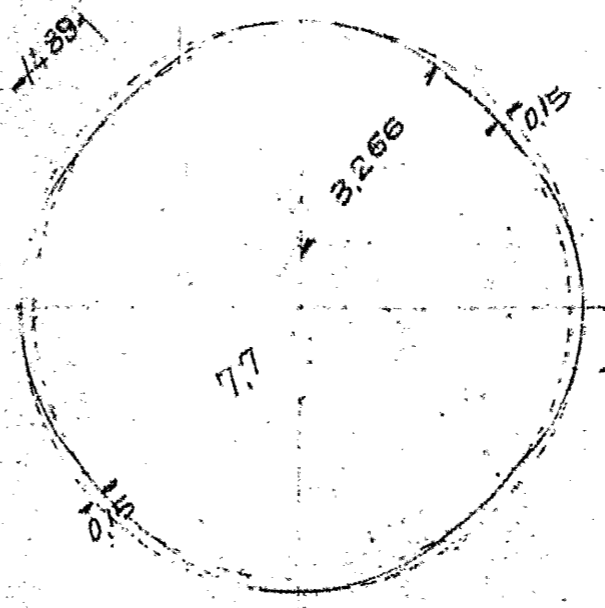
藥 室



($\frac{2}{1}$)

室藥

外面削
四トス
利鈍
五錐
三準

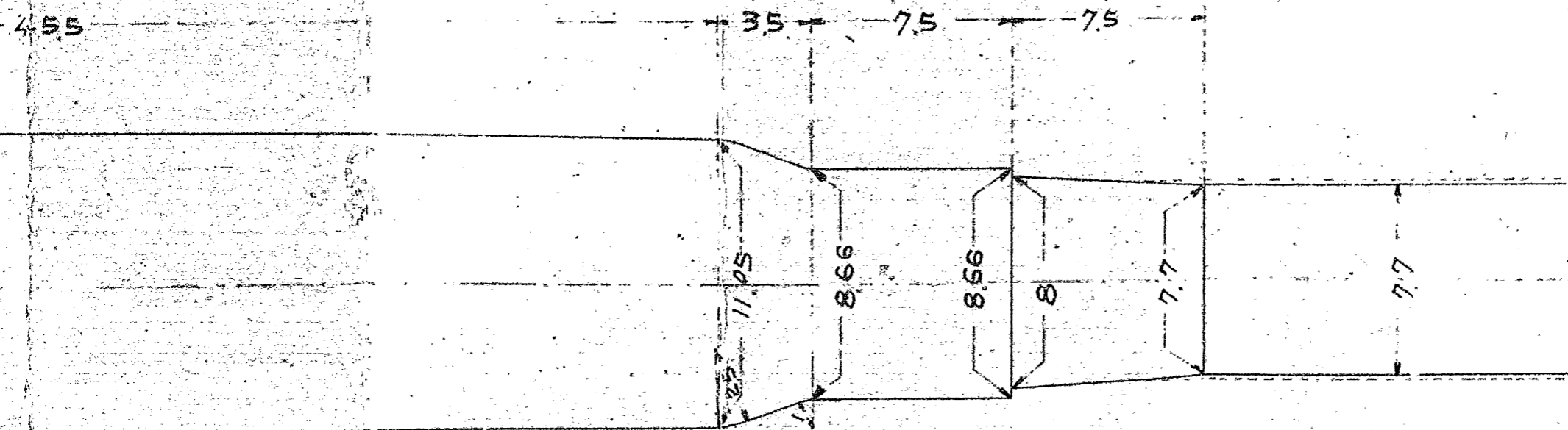


($\frac{10}{1}$)

$$d = D + 0,15$$

$$S = \frac{1}{4} \pi d^2$$

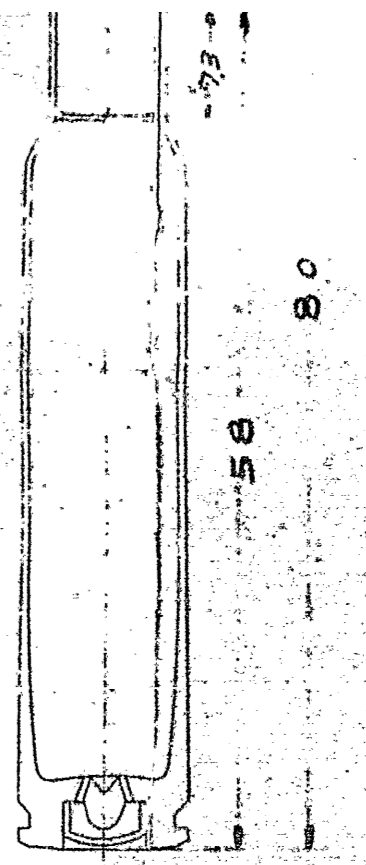
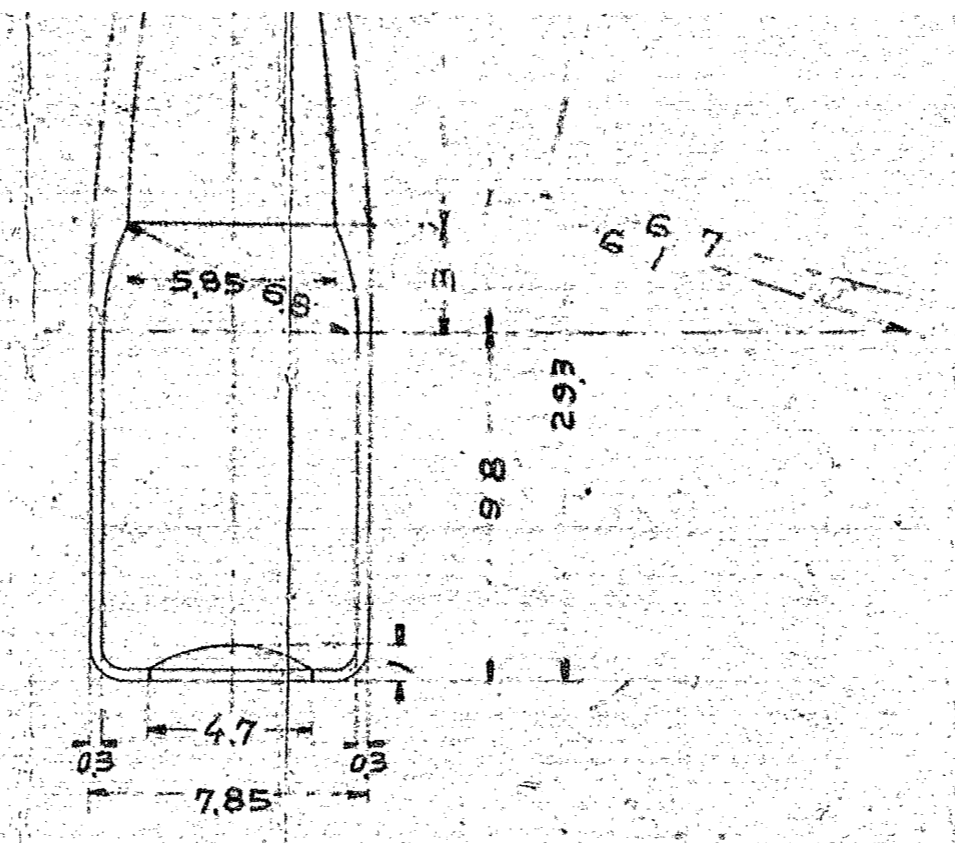
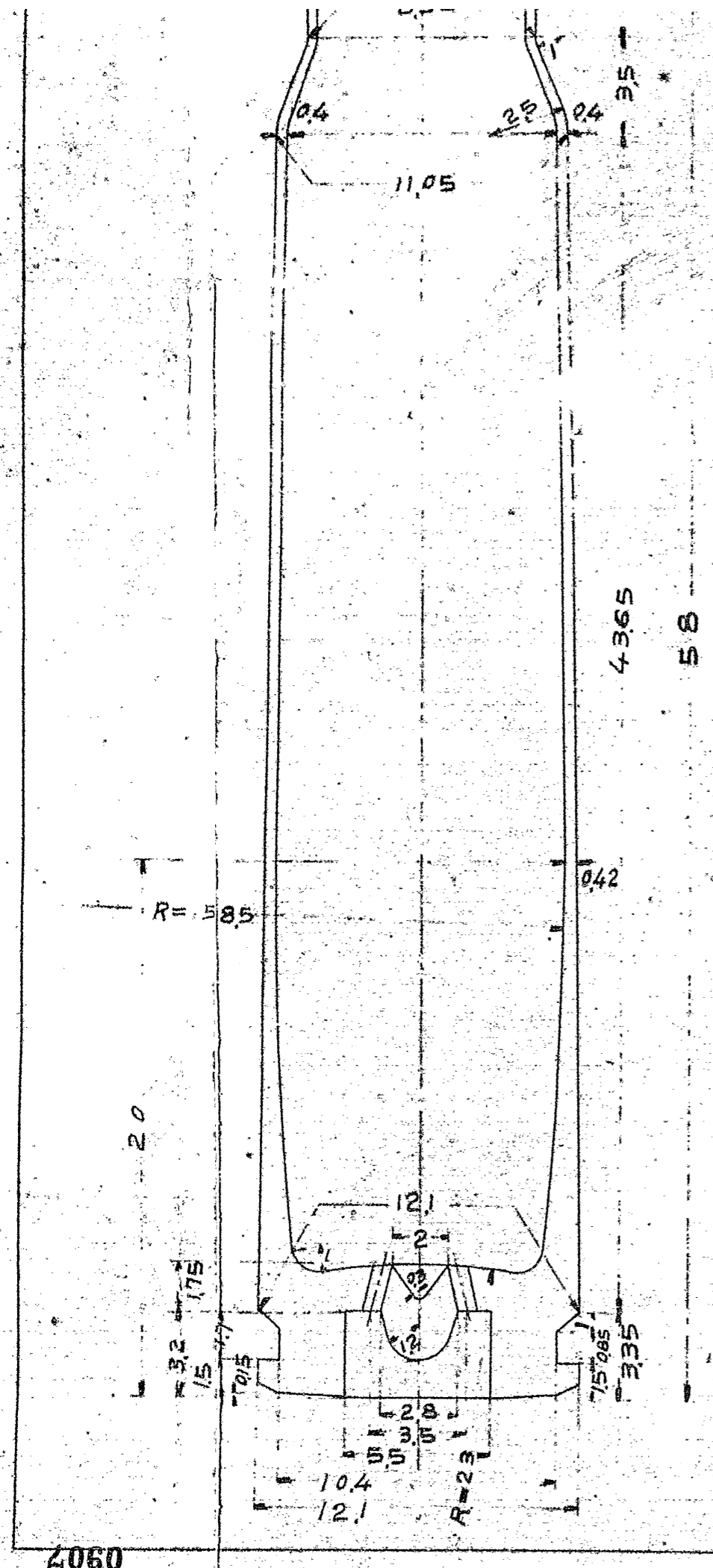
口径	中彈丸徑	斷面積	銃腔	纏度
D	d	S		$\frac{\pi d}{x}$
mm	mm	mm ²		
7.7	7.85	48.3977		237.0



($\frac{5}{1}$)

9060

陸軍技術本部調製



(5)
室 藥

4.55

(5)

2060

9060